

岐阜県の

伝統的工芸品 郷土工芸品



岐阜県を紹介

岐阜県の位置・人口

岐阜県は日本のほぼ中央に位置しており、関市には、日本の人口重心(ひとりひとりが同じ重さを持つとしたときに日本全体の人口を一点で支える点)があります。面積は約1万621平方キロメートルで、全国第7位の広さを誇り、7つの県に囲まれた数少ない内陸県の一つです。

岐阜県の人口は、192万9669人(岐阜県人口動態統計調査結果・令和5年10月1日現在)です。



岐阜市内を流れる長良川



岐阜県の地形・気候

岐阜県北部の飛騨地域は、御嶽山、乗鞍岳、奥穂高岳など、標高3000メートルを超える山々が連なっています。一方、南部の美濃地域は濃尾平野に木曽三川（木曽川、長良川、掛斐川）が流れ、特に長良川中流域は「日本の名水百選」に選ばれるほど美しい清流です。このように、自然に恵まれている岐阜県は、古くから「飛騨の山、美濃の水」という意味で「飛山濃水」の地と呼ばれてきました。

岐阜県は海拔0mの平野から3000メートルを超える飛騨山脈など標高の差が激しいため、岐阜市の平年気温が15.8℃、北部の高山市の平年気温は11.0℃というように、気候も地域によって大きく差があります。このような複雑な地形や気候の影響を受けて、県内にはさまざまな種類の動物や植物が生息しています。

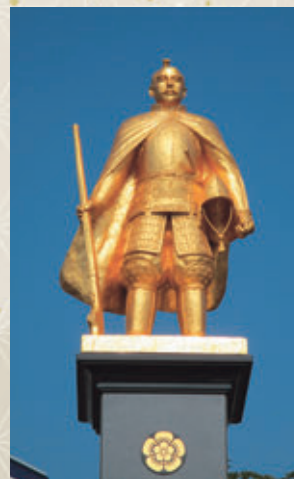
「岐阜」の由来

「岐阜」の地名は、稲葉山に居城を移した織田信長が、尾張の政秀寺の禅僧である沢彦宗恩（たくげんそうおん）が進言した「岐山・岐陽・岐阜」の3つのうちから選んだものといわれています。沢彦和尚は、中国の「周の文王、岐山より起り、天下を定む」という故事にならってこれらの地名を考えたといい、天下統一を目指す信長は「岐阜」の名称を選んで、稲葉山城下付近の「井口（いのくち）」を「岐阜」に改めたといえます。（「安土創業録」から）

なお、「岐阜」という地名は、信長が名づける以前から禅僧の間で使われていたとも言われ、その由来には諸説があります。



岐阜城



JR 岐阜駅前信長像

岐阜県の魅力



世界文化遺産としても有名な白川郷（秋）

岐阜県には世界文化遺産の「白川郷」をはじめ、無形文化遺産の「本美濃紙」や高山祭・古川祭・大垣まつりの「屋台行事」、郡上踊・寒水の掛踊の「風流踊」、世界農業遺産の「清流長良川の鮎」など世界に誇る遺産がたくさんあります。

また、日本三大名泉「下呂温泉」や1300年の伝統を有する「長良川鵜飼」など名所も多くあります。日本屈指の軟水で仕込んだ「日本酒」、知名度高い「飛騨牛」、秋の名物「栗きんとん」など風土を感じるグルメも多く、魅力に溢れています。

岐阜県には豊かな自然や歴史・文化が大切に受け継がれ、守られています。

伝統的工芸品

伝統的工芸品について

下記の要件をすべて満たし、昭和49年に公布された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」(伝産法)に基づき経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことをいいます。

- 主として日常生活の用に供されるもの
- その製造過程の主要部分が手工業的
- 伝統的な技術又は技法により製造されるもの
- 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの
- 一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの

飛騨春慶

指定日／
昭和50年(1975)2月17日

歴史

慶長11年(1606年)高山城下で神社・仏閣の造営にあたった大工の棟梁(とうりょう)高橋喜左衛門が、たまたま打ち割った「さわら」の杣目(へぎめ)を発見し、美しい杣目の盆が塗り上げられました。色調が茶道の名器(茶入)加藤景正の飛騨春慶に似ているところから、春慶塗と名付けられたと伝えられています。

特徴

平面(板)を立体に仕上げる曲げの技法は特に優れており、各種の製品に活かされています。木肌の美しさを引き出す飛騨春慶は、透明で木肌の持つ美しさをそのまま活かすところが特徴です。



飛騨春慶連合協同組合

〒506-0055 高山市上岡本町2-150 TEL 0577-32-4324

■主要製造地域／高山市、飛騨市

一位一刀彫

指定日／
昭和50年(1975)5月10日

歴史

一位一刀彫は江戸時代末期、高山の彫師・松田亮長が飛騨の銘木・一位の木を使うことを思い立ち、生み出されました。一位は木目が美しく、彩色に頼らず木の美しさが表現できます。作品の風合い、彫り手の技量をともに活かす彫刻・一位一刀彫として現在に至っています。

特徴

一位は成長が遅い分、木目が細かくなります。時が経つにつれ茶褐色になり渋みが出てきます。この木の特徴を活かした作品作りが行われています。



飛騨一位一刀彫協同組合

〒506-0011 高山市本町1丁目10 TEL 0577-35-0321

■主要製造地域／高山市、飛騨市、下呂市

美濃焼

指定日／
昭和53年(1978)7月22日

歴史

美濃焼の歴史は古く、今から1400年以上前まで遡ります。最初は朝鮮半島から須恵器の技術が伝えられ、平安時代(10世紀)になると白瓷(しらし)と言われる灰釉(かいゆう)を施した陶器が焼かれるようになりました。この白瓷は須恵器を改良し、釉薬(ゆうやく)を使ったものです。この頃から窯の数も多くなり、本格的な焼き物生産地となりました。安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて、茶人の好みを反映した焼き物「志野・織部・黄瀬戸」が生産されました。これを美濃桃山陶と呼び、現在に引き継がれています。

特徴

美濃焼は、岐阜県の東濃地方で作られている焼き物です。歴史と伝統に支えられながら、現在の生活にも溶け込んでいます。美濃焼の特徴は多様な種類が存在することです。美濃焼は1つの様式を持たず、「志野・織部・黄瀬戸」等15種類が国の伝統的工芸品として指定されています。



美濃焼伝統工芸品協同組合

〒509-5142 土岐市泉町久尻1429-8 TEL 0572-55-5527
<https://www.minoyaki.gr.jp>

■主要製造地域／多治見市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市、可児郡御嵩町

美濃和紙

指定日／
昭和60年(1985)5月22日

歴史

1300年の歴史を持つ美濃和紙は、古来より現代にいたるまで、その高い品質でいつの時代も高く評価されてきました。美濃地方は、良質な和紙を作るのに適した植物や水源が豊富であったため、和紙の生産が盛んになりました。江戸時代には、美濃和紙は封建体制のもとで各藩への年貢や租税の一環として生産が奨励され、その製法が洗練されました。

特徴

美濃和紙は主に楮(こうぞ)、三桠(みつまた)といった植物を原料として使用します。繊維が細くて強い和紙を生み出すことができます。製造は伝統的な手法が守られていて、繊維が密に詰まっており、非常に丈夫でありながら柔軟な質感を持っています。美濃和紙は書道や絵画、伝統的な和の工芸品などに広く使用されています。その素晴らしさが認められ、本美濃紙は2014年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。



美濃手すき和紙協同組合

〒501-3788 美濃市蔵生1851-3 TEL 0575-37-4711
<https://www.minowashi.or.jp>

■主要製造地域／美濃市

岐阜提灯

指定日／
平成7年(1995)4月5日

歴史

岐阜提灯の起りは、約270年前(宝暦年間1750年頃)に、岐阜の御提灯屋十蔵が作成したのが始まりとされ、近くに原材料の和紙、竹が豊富にあったことから発展しました。現在のような特徴を備えた提灯は、天保年間の1830年頃にはかなり普及したといわれています。お盆用や納涼用に広く使用されています。

特徴

形が清楚で、細工が精巧かつ火袋(ひぶくろ)の彩色絵が優雅秀麗です。特に、骨(竹ひご)が細く、紙は極めて薄く、それに花鳥、風景、人物等の絵が描かれており、その形は球形か卵形が特徴です。



岐阜提灯協同組合

〒500-8061 岐阜市小熊町1-18 TEL 058-263-0111
<https://www.gifu-chochin.or.jp>

■主要製造地域／岐阜市、山県市、瑞穂市、羽島郡岐南町

岐阜和傘

指定日／
令和4年(2022)3月18日

歴史

岐阜和傘は、1639年(寛永16年)に、松平丹波守光重が播州明石から岐阜市加納に移封されたとき、一緒に傘職人を連れてきたのが始まりと伝えられ、江戸時代に主要な産業の一つとして確立しました。明治維新後は、国内外で開催された博覧会への出店を通じて技術の向上に取り組み、高い評価を得ました。近年では、和傘は、着物や浴衣などの和装に相応しいアイテムとして選ばれる他、茶会、日本舞踊、歌舞伎などの演劇、寺社の祭礼、各地の伝統芸能等でも欠かせないものとして使用されています。

特徴

岐阜和傘は、「とじて竹、ひらいて花」と称され、閉じた姿は一本の凛とした佇まい、開けば華やかな世界が広がります。畳むと細く収まる傘に、優れた技術と豊富な装飾技法が継承されています。傘を開くときのハジキの音、和紙の模様や透ける様子の美しさ、和紙に雨が当たる音やにおいを五感で楽しむことができます。



一般社団法人岐阜和傘協会

〒500-8009 岐阜市湊町29 MAIL wagasagifu@gmail.com
<https://gifuwagasakyokai.jimdofree.com>

■主要製造地域／岐阜市、瑞穂市、本巣郡北方町、羽島郡岐南町

岐阜県郷土工芸品

岐阜県郷土工芸品について

下記の①から③までの要件をすべて満たし、かつ④から⑤のいずれかの要件を満たした、県が指定した工芸品のことをいいます。

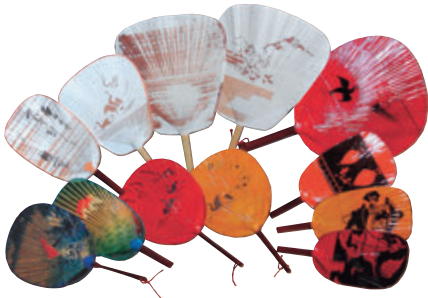
- ① 主として日常生活の用に供されるもの
- ② その製造工程の主要部分が手工業的
- ③ 一定期間、県内において当該工芸品が製造されており、将来にわたって製造の継続が見込まれる
- ④ 製造技術又は技法が地域に継承されている
- ⑤ 郷土の風土、暮らし及び資源等を題材又は素材とし、優れた技術又は技法により製造され、品格を備えている

岐阜渋うちわ

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

竹骨に和紙を張り、仕上げに漆(カシウ)や柿渋が塗ってあります。漆等を塗ることで美しいツヤと深い色合いを引き出すとともに、耐久性を高めています。



住井富次郎商店

〒500-8009 岐阜市湊町46 TEL 058-264-4318
<https://www.ccn.aitai.ne.jp/~gf-utiwa/>

岐阜和傘

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

江戸時代に主要な産業の一つとして確立された岐阜和傘は、閉じた姿は一本の凜とした竹まい、開けば華やかな世界が広がるのが特徴です。傘を開くときの音、和紙の模様や透ける様子の美しさ、和紙に雨が当たる音やにおいを五感で楽しむことができます。



(一社) 岐阜和傘協会

〒500-8009 岐阜市湊町29 MAIL wagasagifu@gmail.com
<https://gifuwagasakyokai.jimdofree.com>

花合羽

指定日／
平成10年(1998)10月30日

特徴

慶長年間に、美濃和紙を原料に植物性油等で仕上げる油紙が盛んに生産されるようになりました。この油紙は様々な用途に用いられてきましたが、現在は、生花を包むために用いられる花合羽のみが伝統を伝えています。



小原屋商店

〒500-8029 岐阜市東材木町32 TEL 058-263-9894

のぼり鯉

指定日／
平成10年(1998)10月30日

特徴

八代将軍吉宗が行った享保の改革で、布製の鯉のぼりの代わりに和紙製の鯉のぼりが作られるようになったのが始まりで、絵は手描きで和紙を手揉みすることで丈夫にし、素晴らしい質感を生み出しています。



小原屋商店

〒500-8029 岐阜市東材木町32 TEL 058-263-9894

美濃筒引き本染め・手刷り捺染

指定日／
平成21年(2009)5月22日

特徴

江戸時代に確立されたとされる伝統的な染色技法です。大漁旗や、相撲・歌舞伎・寄席ののぼり旗、寺社装飾品、獅子舞、半纏等の祭用品、のれん・日除け幕等がこの技法で染付けられます。



岐阜県旗染業組合

〒500-8881 岐阜市青柳町6丁目5 TEL 058-251-1852

岐阜長良川花火

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

炸裂により色星を飛散させる割り薬、色星で円形を描く技法、玉を上げる推進薬、音を出す発音材、美しい色を出す色火付など、花火製造技術に優れています。



(株)村瀬煙火

〒502-0813 岐阜市福光東3丁目8番2号 TEL 058-231-5020
<http://www.hanabiya.jp/>

高木煙火(株)

〒503-0996 大垣市島町643番地 TEL 0584-91-4046
<http://www.enka.co.jp/>

大垣の枰

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

1300年の歴史のある「枰」。枰は古来より量を測る道具でしたが、現在では海外でも日本の伝統的な器として注目されています。主な材料は国産ひのきで、大垣市での生産は全国シェアのおよそ80%を占めています。



(有)大橋量器

〒503-0908 大垣市西外側町2丁目8番地 TEL 0584-78-5468
<https://www.masukoubou.jp/>

(有)児玉工業所

〒503-0034 大垣市荒尾町1054番地 TEL 0584-51-3519
<https://ma-su.jp/>

養老焼

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

釉薬及び自然釉と焼締めによる焼物です。明治35年頃から大正中期まで栄えたものを、昭和50年に復活させたものです。養老木節粘土は、可塑性が高く、収縮性に富んでおり、すべて手作業で製作されています。



創陶苑

〒503-1632 大垣市上石津町下山2528 TEL 0584-45-2178

南濃天然木工芸

指定日／
平成18年(2006)8月10日

特徴

日本を代表する木材、けやき・桜・栃・杉・桧など、30年以上自然乾燥させた天然木を生かして、テーブル・衝立・花台・浮彫表札など製作します。お客様、お手持ちの材料の工芸加工、修理・修繕も致します。



平野工芸

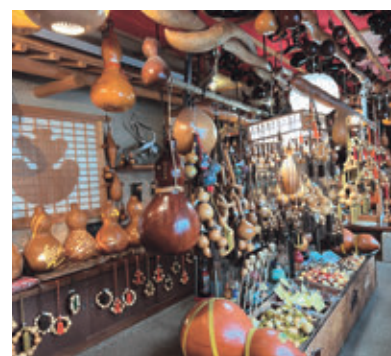
〒503-0401 海津市南濃町津屋2599-6 TEL 0584-57-2677
<https://ryushojp1968.jimdofree.com/>

養老ひょうたん

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

「孝子伝説」を背景としたひょうたん製品です。自家栽培した自然のもののため、1個1個形が違います。お祝いの贈り物だけではなく、日常でも使えるアイデア商品も製作しています。



安田ひょうたん店

〒503-1253 養老町柏尾723-1 TEL 0584-32-2310

西濃大理石

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

日本唯一の多色原石で世界においても非常に稀で大変貴重な大理石です。約2億年～4億年前の地殻変動の特異な造山活動や断層地震等の多発により出来た変化に富んだ貴重な天然資源と言われています。



(株)関ヶ原マーブルクラフト

〒503-1595 不破郡関ヶ原町2700番地 TEL 0584-43-2000
<http://www.marblecraft.co.jp/>

久瀬のまいおどり

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

うちわの骨組みや提灯に直接蚕を這わせ糸を吐かせるもので、天然シルクから創り出される光沢があります。



(有)大西生糸工芸

〒501-0702 揖斐川町東津汲1730-1 TEL 0585-54-2353

関の手づくりナイフ

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

海外のコレクターに人気があるカスタムナイフです。優れた独自のデザインとナイフの精巧な作りと技術は本場アメリカでも認められ、国内外で数多くの賞を受賞。オンリーワンのナイフをデザイン製作・販売しています。



(有)ナイフハウスハラ

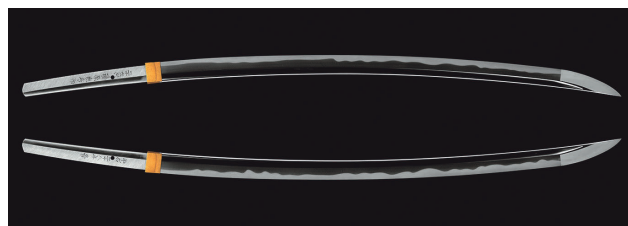
〒501-3922 関市大杉292番地2 TEL 0575-24-7569
<https://www.knifehousehara.com>

関伝日本刀

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

美術品としての価値の高い工芸品です。その1振りには刀匠をはじめ数多くの技能師、研ぎ師の技が凝縮されています。



関伝日本刀鍛錬技術保存会

〒501-3232 関市桜本町2丁目30番地1 TEL 0575-24-6455

美濃和紙加工品

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

1300年の歴史を持つ美濃和紙は主に楮(こうぞ)、三桮(みつまた)といった植物を原料として使用します。国指定伝統的工芸品の美濃和紙を利用した加工品です。



美濃手すき和紙協同組合

〒501-3788 美濃市藤生1851-3 TEL 0575-37-4711
<https://www.minowashi.or.jp>

郡上紬

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

郡上紬は暖かさと柔らかさ、肌触りの良さが特徴です。「縞織り」と「緋織り」を組み合わせ、曲線模様、独特のぼかし模様など独自の複雑な表現による多様な柄の美しさがあります。



郡上工芸研究所

〒501-4222 郡上市八幡町島谷130-1 (郡上市役所商工課)
TEL 0575-67-1808

郡上本染

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

郡上本染は江戸時代から400年以上続く日本伝統の「正藍染」です。正藍染とは、天然の藍を原料とした伝統の染色技法です。冬の風物詩として親しまれる郡上八幡の清流での「鯉のぼり寒ざらし」では、色鮮やかな鯉のぼりが、水中を雄大に泳ぐような姿を愉しめます。



渡辺染物店

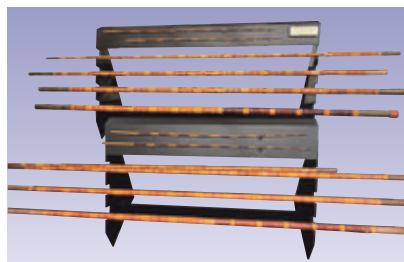
〒501-4222 郡上市八幡町島谷737 TEL 0575-65-3959
<http://www.gujozome.jp/>

郡上竿

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

一本一本がすべて手作りで、年間40～50本ほどしか生産されない貴重な和竿です。独特の調子が人気でファンが多く、釣り好きなら一度は使いたい逸品と言われています。



福手釣竿製造所

〒501-4105 郡上市美並町三戸1054-1 TEL 0575-79-2283

平成の円空彫り

指定日／
平成20年(2008)4月17日

特徴

「平成の円空彫り」は35年以上円空仏の研究を続け、円空さんの心を大切に円空像を彫り続けています。実在する円空仏をモデルにしたものや、オリジナル作品もあり、注文制作にも応じています。



田中 正

〒501-4106 郡上市美並町白山430-4 (郡上市役所美並振興課(日本まん真ん中センター))
TEL 0575-79-3700 <https://enkubori.handcrafted.jp/>

ひな人形 五月人形

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

伝統的工芸品「名古屋節句飾」の伝統工芸士として認定されている蘇童(そどう)の節句人形は、100年以上前から継承されている技術、技法、材料にて手づくりで制作されています。



(株)長谷川人形

〒505-0301 加茂郡八百津町八百津4258-5 TEL 0574-43-0821
<https://sodou.web.fc2.com/>

美濃白川まゆの花

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

かつて、白川町では養蚕が盛んに行われており、繭の丸みを利用した繭花等が作られるようになりました。現在養蚕は行っていませんが、繭を使用した花や干支・ひな人形等加工技術が伝承されています。



美濃白川まゆ工房

〒509-1107 白川町河東3500-1 (道の駅美濃白川「ピアチェーレ」)
TEL 0574-75-2146

東濃檜製神棚

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

東濃桧は寒暖差が激しく寒さが厳しい地域でゆっくり育つため木目が細かく丈夫な特徴があり、日本三大桧として建材はもとより神社仏閣に至るまであらゆる面で重宝されます。その希少な桧を使った神棚は淡いピンクの木肌から時間と共に光沢を増す逸品です。



(有)和泉産業

〒509-1105 白川町河岐1024 TEL 0574-72-2133
<https://www.kamidanaya.com>

(有)早川産業

〒508-0351 中津川市付知町10068 TEL 0573-82-2065
<https://hayakawa-sangyo.co.jp>

恵那ロクロ製品

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

伝統的な挽物(ひきもの)の技法で皿や盆を作っています。古くは足踏み、現在は電動ロクロを回しながら自作かんを使い仕上げるもので、熟練を要します。木地産地は各地にあります、分業を行わず原木の選定から木取り加工完成まですべての工程を行うのが特徴です。



小椋製盆所

〒509-9232 中津川市坂下413-5 TEL 0573-75-2307

小林ロクロ工芸

〒509-7202 恵那市東野310-2 TEL 0573-26-3139
<https://www.kijishi.com/>

大蔵木工所

〒508-0011 中津川市駒場1666-3300 TEL 0573-66-7007
<https://okuramokkosho.co.jp/>

裏木曽曲物製品

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

中津川市付知町周辺は良質な木材の産地であり、木にまつわる技術や知恵が代々受け継がれています。木曽や東濃の優良な材料を活かし、地元の熟練した職人の手によって、蒸籠やお櫃を製作しています。



(株)マルヤ製作所

〒508-0351 中津川市付知町11002-3 TEL 0573-82-3699
<https://maruya-seiro.jp/>

蛭川みかげ石製品

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

岩石の中でも圧縮強度が高く、吸収性が低いことで知られる花崗岩(かこうがん)。「蛭川みかげ石」には白・サビの2色があり、特に人気のあるのは赤みがかった「さび石」。石本来の高級感に加え、温かみのある雰囲気の特徴です。



岐阜県花崗岩販売協同組合

〒509-8301 中津川市蛭川5286-5 TEL 0573-45-2615
www.hirukawa-ishi.com

瑞浪の創作箸置き

指定日／
令和5年(2023)2月8日

特徴

箸置きは、職人による手作業でひとつひとつ丁寧に作られています。そのままの土の風合いを生かしたのもあれば、釉薬を塗って細部まで表現したものもあります。



マスターズクラフト(株)

〒509-6101 瑞浪市土岐町7206番地の46 TEL 0572-68-9341
<https://www.masterscraft.co.jp/>

瑞浪土人形

指定日／
令和5年(2023)12月4日

特徴

瑞浪土人形は、明治時代より農閑期の副業として盛んに作られ、節句の雛壇を賑わせていました。板状の粘土を型に押し当て、貼り合わせて成形し、焼成、彩色するという伝統的な製法を守り、素朴で愛らしい人形は作られています。



おひなの会

〒509-6132 瑞浪市明世町山野内1-6(瑞浪市陶磁資料館)
TEL 0572-67-2506

精炔器

指定日／
平成14年(2002)11月29日

特徴

昭和初期に生まれた「やきもの」で、きめ細やかな黄土色の素地に化粧土を用いた様々な加飾技法を用いて立体的で優美に絵付けされていることが特徴です。



精せつ器研究会

〒509-5122 土岐市土岐津町土岐口1470-1 TEL 0572-55-3580

飛騨さしこ

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

「刺し子糸」は撚糸会社と共同で刺し子専用の撚り方を開発し質量感を出し温かみのある糸を製品化しました。また、刺し方は線から面への表現を出すため、数年間かけて絨地に一目刺しを施す技法を各製品に用い好評を得ています。



(有)飛騨さしこ

〒506-0847 高山市片原町60番地 TEL 0577-34-5345
<https://hida-sashiko.jp>

渋草焼

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

1841年、郡代と御用商人の半官半民によって渋草の地で始められ、陶工は尾張、絵付師は九谷から招かれました。現在は二つの窯元が先人の精神・技術を受け継いでいます。

(株)芳国舎渋草製陶所

〒506-0845 高山市上二之町63番地 TEL 0577-34-0504
<http://www.shibukusa.co.jp/>

渋草柳造窯

〒506-8555 高山市花岡町2丁目18番地(高山市商工振興課)
TEL 0577-35-3144



小糸焼

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

高山市西劔・小糸の地で昭和21年に開窯して以来、手作りのやきものを作り続けています。飛騨で採れる赤土・灰を使用した伊羅保(いらぼ)釉が特徴で、「現代の暮らしに馴染む和の器」を目指し日々作陶しています。



小糸焼窯元工房

〒506-0055 高山市上岡本町1丁目136番地 TEL 0577-32-1981
<https://koitoyaki.jp>

円空彫

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

最高傑作とされる観音像を残したことで有名な円空上人。その作風を模して作られる作品にも熱き思いが込められています。



円刀会

〒506-8555 高山市花岡町2丁目18番地(高山市商工振興課)
TEL 0577-35-3144

飛騨宮村ひのき笠・一位笠

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

宮笠は、江戸時代から伝わる木を編んで作られる笠で、その材料として、ヒノキと竹の他にイチイを用いるのが特徴です。軽くて通気性がよく、雨降りでは編み目がふさがりため、顔が濡れません。今なお現役の生活道具として、野外作業や雪よけ、釣りの際などに愛用されています。



飛騨桧笠製造組合

〒509-3505 高山市一之宮町4952番地 TEL 0577-53-2490

小屋名のショウケ

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

小屋名しょうけは、久々野町小屋名地区に古くから伝わる竹細工で、野菜の水切りや米上げなどの台所用品として使われてきました。細かく割ったスズタケを縦横に丹念に編み込んだ美しい編み目が特徴です。



小屋名しょうけ保存会

〒509-3202 高山市久々野町小屋名1068番地2 TEL 0577-52-2518

飛騨高山の手描き絵馬

指定日／
平成18年(2006)8月10日

特徴

創業文政年間、手描き、手摺による紙絵馬です。肉筆の技法・しきたりを頑なに守り続けています。また、使用する和紙も国産和紙を使用しています。



(資)池本屋

〒506-0012 高山市八軒町1丁目47番地 TEL 0577-32-0511
<https://www.ikemotoya.com/>

飛騨高山の有道しゃくし

指定日／
平成18年(2006)8月10日

特徴

「有道しゃくし」の大きな特徴は、一本の材料で作るため継ぎ目が無く丈夫であることです。その歴史は古く、江戸時代に大工の庄五郎が京都へ働きに行っていた折に習得し有道地区に伝えたものと言われています。



有道しゃくし保存会

〒509-3214 高山市久々野町無数河2412番地2 TEL 0577-52-3362

飛騨染

指定日／
平成20年(2008)10月16日

特徴

石・土・鉄・銅・松煙等から作られた顔料(染料)を豆の絞り汁で溶いて染付けた製品です。染付後は、清水で洗い、寒風に晒して、色の定着・発色を促します。



(有)ゆはら染工

〒506-0808 高山市松本町103番地3 TEL 0577-32-2113
<https://yuharaskou.sakura.ne.jp>

地張提灯

指定日／
令和5年(2023)2月8日

特徴

飛騨地方では、祭礼時の屋台や街並みを照らすため、提灯は欠かせない工芸品となっています。各神社や屋台組ごとに、形、柄、文字が決まっており、100を超える種類があります。



山下提灯

〒506-0055 高山市上岡本町1丁目70番地 TEL 0577-33-5235
<http://39hida.com/yamashita/>

和ろうそく

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

230年余り続く三嶋和ろうそく店の和ろうそくは、原料すべてが自然由来。そのためススがでにくく風が吹いても消えにくい。また手作りのためロウが横に流れることなく長持ちするという特徴があります。



三嶋和ろうそく店

〒509-4234 飛騨市古川町壱之町3-12 TEL 0577-73-4109

飛騨のさるぼぼ

指定日／
平成20年(2008)10月16日

特徴

さるぼぼとは、飛騨の言葉で「猿の赤ん坊」という意味です。赤い顔が猿の赤ん坊に似ていることから、そう呼ばれるようになりました。平安時代頃から出産時に赤子にふりかかる災いを人形に身代わりしてもらった子孫が変化しましたので、形がさるぼぼに似ているため、人形の元祖だろうと言われていました。飛騨では、家庭の手作り人形として、裁縫の最初の練習に良縁、安産を願って作られてきました。



飛騨のさるぼぼ製造協同組合

〒506-0003 高山市本母町450番地2 (有)愛和工芸内 TEL 0577-57-5536
<https://sarubobokumiai.wixsite.com/sarubobo>

山中和紙

指定日／
平成4年(1992)3月30日

特徴

800年以上続く雪ざらし。伝統的な手法を守りながら今に伝えています。障子紙をはじめ、高級和紙として書道家・愛好家、文化財補修用に使われたりと様々です。山中和紙と呼ばれるこの和紙は原料から漉きまで丁寧に手作業で行われています。



河合町手漉き和紙組合

〒509-4301 飛騨市河合町角川709 TEL 0577-65-2912



岐阜県の 地場産業

陶磁器産業

東濃西部地域はやきものに最適な良質の原料が多く採れ、土岐市を中心に近隣地区一帯で多種多様なやきものが生産されてきました。

また、芸術性の高い織部や黄瀬戸、志野焼もその一つです。そしてこれらを称して『美濃焼』と呼ばれています。

また、近年では新しい産業分野としてセラミック製品なども注目され、美濃焼の技術やその製品は毎日なにげなく使っている日常の食器から、工芸作品、はたまた宇宙産業や工業にと、幅広く生活に溶け込んでいます。



繊維・衣服産業

岐阜市及び周辺地域は、アパレル産地“岐阜”として発展を遂げてきました。岐阜市近郊には、アパレル企画やデザイン画及び型紙作成、裁断・接着・縫製・プレス等の技術が一貫して揃っており、繊維・衣服産業の礎となっています。また、紡績業や織物業、染色業等が揃う日本有数の織物産地が近隣にあり、共に発展してきました。近年では、消費者ニーズの多様化に伴う、製品の高付加価値化や高機能化といった取り組みや、流通販売の変化に伴う、多様な販売チャンネルに対応する取り組みが強化されています。地域一丸となって“岐阜ファッション”の発信と拡大を目指しています。



紙産業

紙産業の歴史は、この地方がまだ『美濃の国』と呼ばれていた、約1360年程前にさかのぼります。当時の美濃地方（美濃市）は紙の原料となる良質の「楮（こうぞ）」が多く採れ、また紙すきの技術も優秀であったため、美濃紙の美しさと丈夫さが全国的に知られることとなり、その技術が1300余年に亘り、現在に受け継がれてきました。戦後、生活様式の多様性にともない、美濃和紙の工房でも柔軟な対応として、洋紙の生産にも着手するようになりました。いまでは、和紙を使った便箋や障子紙をはじめ、長年培った技術とノウハウを生かした印刷などの用紙づくり、また再生紙を原料とするトイレトペーパーや紙容器、今後需要が見込まれる紙おむつなど、時代のニーズにリアルタイムに応えた紙製品の製造に取り組むようになりました。



金属刃物産業

「刃物のまち関市」は、鎌倉時代から続く「五箇伝」の一つ「美濃伝」の刀の産地であり、「折れず曲がらずよく切れる」という「関の孫六」に代表される関の刀は質実剛健と高い評価を受けました。この卓越した伝統技法と職人たちの気骨は現代の刃物産業にも受け継がれ、包丁、ハサミ、ナイフ、ツメキリ、カミソリなど高品質な家庭用刃物を製造し国内トップシェアを誇っています。近年では「ダマスカス包丁」など職人技と先端加工技術の融合から生産される美しいデザインと切れ味の良さが海外にも広く知られるようになり、「世界の三大刃物産地」の一つと評されています。



食品産業

岐阜県は、「飛山濃水」とたとえられるように、緑豊かな山々と木曽川・長良川・揖斐川の三大河川に代表される豊富な水に恵まれ、優れた自然環境のもとで様々な食材が育まれています。また、地域毎に特色ある農産物が生産され、これらを原材料とした加工食品が数多く製造されています。



木工産業

「岐阜は木の国・山の国」と謳われているように、良質の木材が多く採れ、特に東濃ヒノキは全国的にも木材のブランドとして有名です。またナラも多く生育しているところから、昔から木工産業が盛んで、飛騨地区や東濃地区のヒノキやナラ材の加工製品が全国的に知られています。小さいものでは民芸品の土産物から大きなものでは机やイスなどの家具、木造住宅の用材に至るまで、私たちの生活の中に身近に溶け込んでいます。



プラスチック産業

プラスチック製品は、日用雑貨から食品容器をはじめとする様々な容器、輸送用機械、パイプ、継手、建設資材、医療用器具、福祉用品等々、私たちの暮らしや産業を支えるなくてはならない存在です。岐阜県のプラスチック製品製造業は、岐阜県の産業の一翼を担う主力産業として、多岐にわたるプラスチック製品を製造し、人々の暮らしを健康で豊かにしてきました。また、近年はリサイクル材を使用した製品や植物由来のバイオマスプラスチック製品の製造など、環境に配慮した製品を数多く製造するなど、プラスチック資源循環型社会の形成に向けて貢献されています。



匠の技・日本の美 岐阜の伝統工芸



発行元・お問い合わせ

岐阜県商工労働部地域産業課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

TEL 058-272-1111 (代表)

FAX 058-278-2656